

# 共通試料環境機器の現状と今後の予定

## Current status and plan of the common sample environment equipment

渡辺真朗<sup>1</sup>・奥隆之<sup>1</sup>・河村聖子<sup>1</sup>・高田慎一<sup>1</sup>・高橋竜太<sup>1</sup>・酒井健二<sup>1</sup>・  
山内康弘<sup>2</sup>・中村雅俊<sup>2</sup>・宗像孝司<sup>3</sup>・石角元志<sup>3</sup>・坂口佳史<sup>3</sup>・大内啓一<sup>3</sup>・  
吉良弘<sup>3</sup>・相澤一也<sup>1</sup>

1 日本原子力研究開発機構, J-PARC センター

2 日本アドバンステクノロジー

3 総合科学研究機構, 中性子科学センター

J-PARC 物質生命科学実験施設には、各ビームライン(BL)の装置としてそれぞれ標準の試料環境(SE)機器を所有する一方、試料環境機器(SE)チームが組織され、BL 共通試料環境機器の整備および利用支援を行っている。使用頻度は高くないが必要不可欠な機器や、各 BL で個別に整備するには非常に高価なものや、運転に専門の知識や技術を要するものなどが BL 共通 SE 機器に含まれる。SE チームは、(1)低温&磁場、(2)高温、(3)高圧、(4)ソフトマター、(5)パルスマグネット、(6)光照射、(7)3He スピンフィルターのサブチームで構成されている。本発表では、SE チームが取り組んでいる BL 共通試料環境機器整備の現状と今後の予定等について説明する。